

令和 4 年度第 2 回 生物多様性推進会議 委員意見及び対応方針案

主な推進会議意見	素案への反映方針
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本版 OECM では企業の取組みが進みつつあるが、企業がどのように地域に貢献できるかが重要である。昼間の在勤者は区内の情報をあまり受け取れていないことも課題。 ・ 千代田区の特徴である昼間人口を踏まえ 100 万人都市ととらえて考えることを最初の方でしっかり書き込んでほしい。 ・ 千代田区はここ 10 年でまちがかなり変化している。人口増加や高層マンションの増加などの背景についても記載してもいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在勤者のほか観光客等来訪者の役割について示す (P15、27)。 ・ 企業は生物多様性にかかわっていくことでメリットがあること、経済的にもプラスになるということ示す (P28)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 章(前回提示)の内容が偏っている。かなりの部分が生物の状況と区民の理解度や考えに集中している。課題は示されているが、地域社会に係る課題に関連する記述がほとんどない。エビデンスとなる実態の情報などを加えられるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モニタリング調査結果やアンケート結果については資料編に移行。本文には人口の変化(夜間・昼間)や区民の理解度アンケートについて一部抜粋して掲載 (P12~14)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「エコロジカルネットワーク」が常に良い方向に働くという理解で書かれている。しかし外から大規模でかつ重要な生態系拠点に新たな生物が入ってくるというリスクもある。 ・ 外来種ネットワークを構築してしまうおそれもある。特に都心やその周辺では外来種が多いので慎重な対応が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコロジカルネットワーク形成に伴う外来種の侵入についても示す (P6)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 千代田区は皇居という究極の大規模緑地があり、日本の両極端な環境を併せ持つ特殊な立地にある。一つのキーワードは「皇居から周辺につなぐ」という考え方、また、30%になるように創出・再生していく・質を高める努力を積み上げていくという考えもネイチャーポジティブの一つとしてとらえることができる。 ・ 30by30 を目指して再生する、という意識が大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2030 年目標において「ネイチャーポジティブな実現」を掲げ、「2030 年の目標達成に向けた戦略」および「2030 年に達成すべき状態」の中で具体的に説明する (P19、P21)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来種に関しては、大丸有地域で 8~9 年前に外来種対策ガイドラインを作成、他企業(不動産会社)にも情報開示・共有している。丸の内だけでやっても限りがあるので周辺と連携して取り組むことが 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動計画の主体間ネットワークの強化に関連して、各種取組み情報の発信の中で、各主体の取組み情報や成果、ガイドライン等を共有する (P42Ⅲ-2、行動計画①)。

<p>重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間人口が多いため自分事としての関心が薄いのが問題。自分事としてみな理解し目標に向かって行動していく、そこに訴えていける改定内容になるとよい。会議メンバー使って具体的取組みを動かしていくことができるとよい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・千代田区は大企業の集積と皇居の大きな拠点があるという特徴がある。企業の従業員の行動変容の取組みを進める必要性があり、そのことで区内だけでなく従業員が住む区外地域への波及効果もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「3.2 各主体の主な役割」の(1)「住み、働き、学ぶ」区民一人ひとりの役割、(3)事業者の役割において、役割を果たすことによる区外地域への波及効果について言及する(P27~28)。
<ul style="list-style-type: none"> ・2050、2030 目標、先に 2030 目標を実現した先に 2050 目標があるのだが、現状から何を変える、何をすると 2030 目標にたどり着き、その先さらに 2050 に行きつく、という時系列が読み取れる見せ方できるとよい ・「ネットワーク」が生態系ネットワークの話なのか、人のネットワークの話なのか、使い方に注意が必要。目標と行動計画の対応関係が必ずしもよくない。たとえば 1-1 の③は 1-2 あるいは 2-1 に関係が強い。1-1 ④もその先の活用を考えると 2 の方につながるなど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて目標について再整理をした(P21)。行動計画についても関連性を考慮し再整理をした(P30)。 ・「ネットワーク」の使い分けについて、生態系ネットワークの話では「ネットワーク」という言葉を使用し、人とのネットワークの話では「協働」「連携」「協力」等の言葉を使用しました。